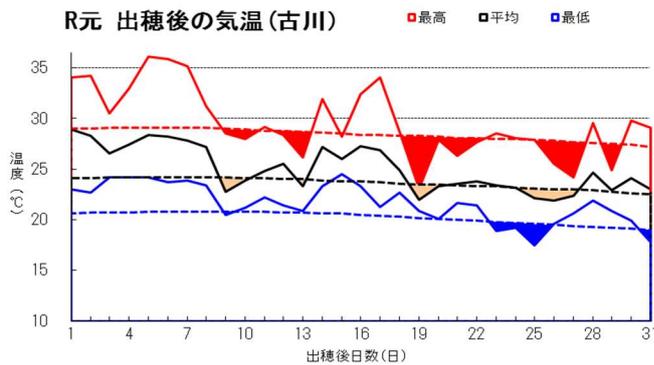


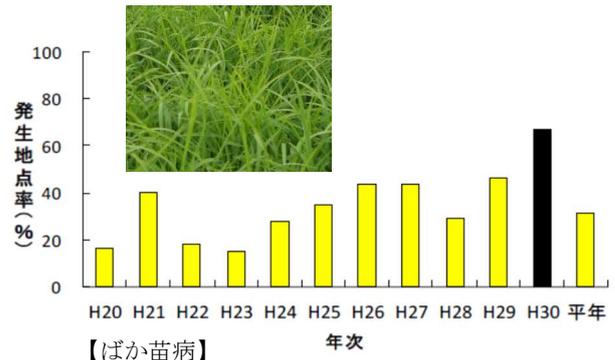
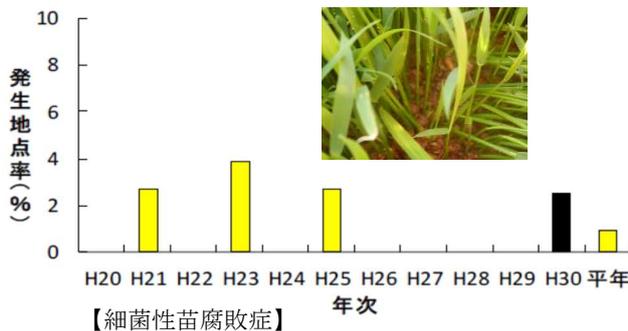
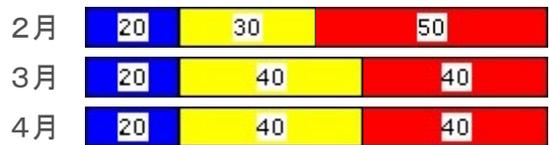
～令和2年産水稻育苗時のばか苗・細菌性苗腐敗症に注意を！！～

1 令和元年の出穂後気象や今後の気象予報と発病について

- ・細菌性苗腐敗症は、出穂期の気温や湿度が高いと、籾への感染が高いとされている。
- ・令和元年は、出穂前後の気温と湿度は高く、感染に好適な気象条件と思われる。
- ・平成30年には、ばか苗病や細菌性苗腐敗症が地域によって大発生となった。
- ・3ヶ月予報によると水漬けや育苗が始まる3、4月も高温が予想されている。



東北地方の3ヶ月予報(気温)



2 防除対策

- ① 温湯処理済みの種子でも“塩水選”を必ず実施する。
- ② 浸漬時の温度は、上がりすぎないように注意する。(適温 10～13℃, 高水温で水槽内で菌が増殖し健全籾へ蔓延)
- ③ 催芽温度は 28～30℃とし、温度計で必ず確認する。(高温 32℃以上で発病過灌水は拡大)
- ④ 出芽、育苗初期の高温 (32℃以上) や過度の灌水に注意する。
- ⑤ 無加温育苗は、出芽まで過度に地温が上がらないよう管理に注意する。
- ⑥ 育苗時高温の気象条件下では発病の可能性が高まるので、生物農薬 (エコホープ, タフブロック等) やカスミン (剤) を組み合わせた防除体系を検討する。

